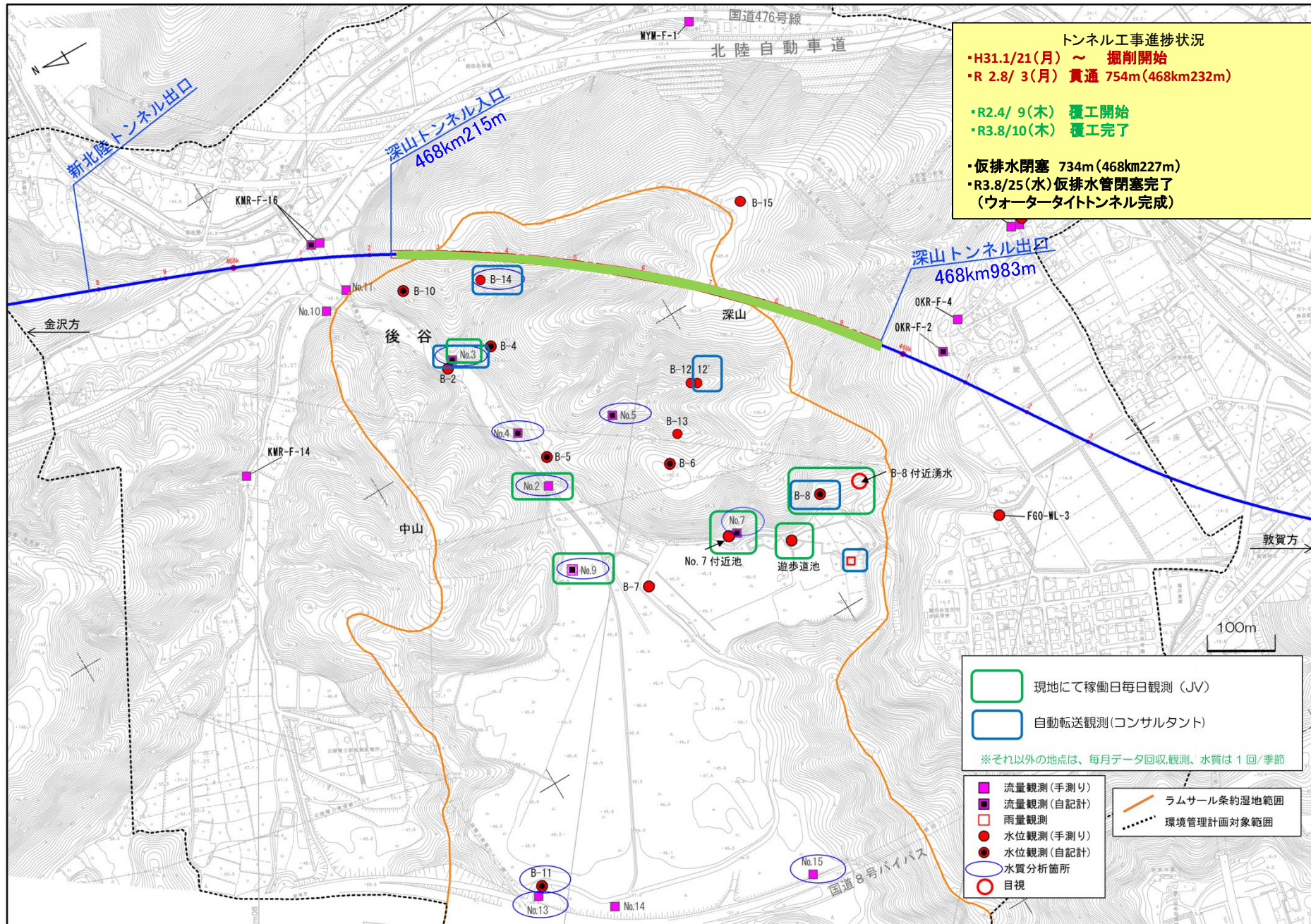


深山トンネル水文調査モニタリング報告書

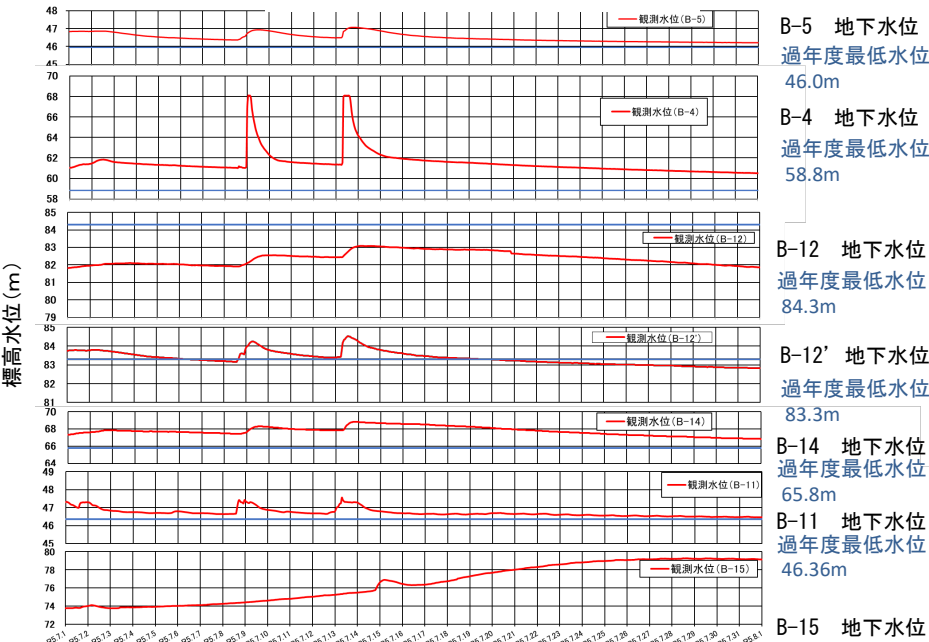
調査期間：令和5年7月1日（土）～令和5年7月31日（月）

「北陸新幹線、中池見湿地付近深山トンネル等工事に係る環境管理計画」に基づき実施している水文環境モニタリング結果について報告する。

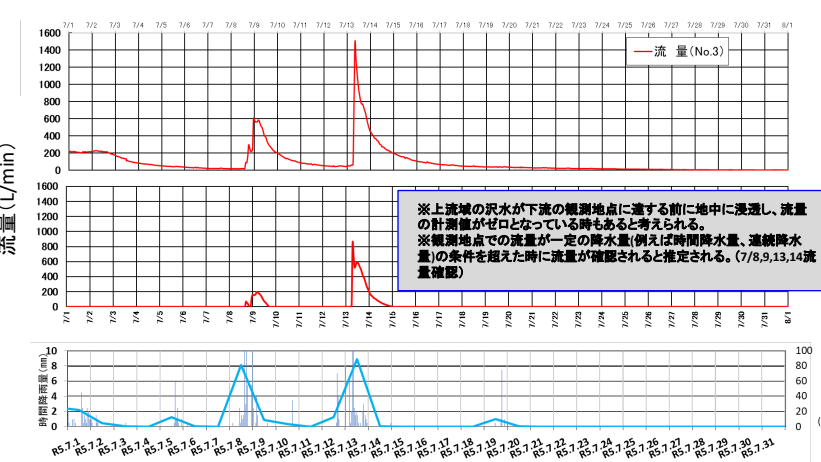


水文環境モニタリング観測地点図

※主要箇所のみ抜粋 地下水位観測結果図(自記記録)



流量観測結果図(自記記録)



全体総括

- 目立った変動なし □やや変動あり
- 変動あり(注意体制への移行を検討)
- 期間中の地下水位低下量
 - 1m未満ないし増加:B-6以外
 - 2m未満: ■5m未満:B-6 □5m以上
- 期間中の流量低下量
 - 50ℓ/分未満ないし増加:すべて □50ℓ/分以上:
- 期間中のpH変動量⇒計器不良により欠測(6/19から計測開始)
- 0.5未満 □0.5以上 □1以上
- 日降水量
 - 15mm未満 □15mm以上 ■50mm以上(2日)
- 月降水量
 - 80mm未満 □80mm以上 □130mm以上 ■200mm以上

概 要

■水位変動について

- ①目立った変動なし
- ②B-4(自記水位計):期間中の降水に明瞭な反応を示す。過年度最低水位を上回る状態が継続する。
- ③B-5(自記水位計):期間中の降水に不明瞭ながらも反応を示す。水位は期間を通して概ね一定である。過年度最低水位を上回る状態が継続する。
- ④B-12(自記水位計):期間中の降水に不明瞭ながらも反応を示す。過年度最低水位を下回っている状態が続くため、今後も注視していく。
- ⑤B-12'(自動転送):期間中の降水に不明瞭ながらも反応を示す。7月中旬を境に過年度最低水位を下回る状態が続くため、今後も注視していく。
- ⑥B-14(自動転送):期間中の降水に不明瞭ながらも反応を示す。水位は期間を通して概ね一定である。過年度最低水位を上回る状態となる。
- ⑦B-15(自記水位計):期間を通して水位は緩やかな上昇傾向となり、標高79m付近で一定となる。

■流量変動について

- ①No.3(自動転送):期間中の降水に明瞭な反応を示し流量は一時的に増加傾向を示す。期間を通して流量はほぼ一定で、7/13の流量は降雨による影響で、一時的に1500L/min前後と非常に大きな値を示す。
- ②No.5(自記):期間中は0L/minの状態が続くが、7/8,9,13,14の降雨の影響により一時的に流量が200~850L/minと非常に大きな値を示す。
 ⇒少雨や大雨の数日後の状況として、当該上流域の沢水が下流の観測地点に達する前に地中に浸透することにより流量の計測値がゼロとなっている状況がある。
 ⇒観測地点での流量が一定の降水量(例えば時間降水量、連続降水量)の条件を超えた時に流量が確認されると推定される。

■降水量について

- ①7月の日最大降水量:7/8の83.5mmである。
 ⇒6月の日最大降水量:6/29の131.5mmである。
- ②7月の降水量:243.5mmである。
 昨年7月は226.0mm、平年値(敦賀アメダス)は204.0mm
 ⇒6月の降水量:332.5mmである。
 昨年6月は89.5mm、平年値(敦賀アメダス)は144.1mm

No. 3 流量

No. 5 流量

降水量